第4回 引佐南部中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月18日（火） 13時30分から15時30分まで
- 2 開催場所 引佐南部中学校 2F会議室
- 3 出席委員 内山 哲哉、山村 行弘、安戸 哲弘、河村 壽子、眞鍋 和親、永田 琢也、鈴木 千香子
- 4 欠席委員 石野 由美子
- 5 オブザーバー 戸田 誠
- 6 学 校 阪井 小百合（校長）、河合 司（教頭）、荒谷 朋子（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 荒谷 朋子
- 9 議長の選出

司会から、本日の議長の選出について、前回協議通り内山会長にお願いする旨確認し、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 来年度学校運営基本方針の説明
- (2) 学校運営協議会の自己評価
- (3) その他

11 会議記録

司会の河合教頭から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

また、会議に先立ち、前回会議録の確認をお願いした。

(1) 来年度学校運営基本方針の説明

議長の指示により、校長から、資料に基づき来年度の学校経営方針について説明があり、委員から、以下の発言があった。

- ・ 学習習慣の確立は非常に大切。中学でついていないと、高校に行っても学習への意識が低い。勉強の仕方がわからないということもあるが、興味のないことへの知ろうという意識が低い。知的好奇心が低い。（山村委員）
- 自分の言葉で授業への振り返りをタブレットなどで行うようにしたい。情報も限定的になっているため、好きなことへの情報しか知らない生徒が多い。教員から幅広い情報を伝えてはいるが、子供自身が偏った情報ということもわからないといけない。（校長）
- ・ 興味関心を大事にするという現代の中で、一般教養がおろそかになってきている気もする。（内山委員）
- ・ 興味があることへの検索能力は大人よりもはるかに優れているが、興味の広がりには狭いため、偏る。（戸田オブザーバー）
- ・ 来年122人入学で4クラス編成にならないのはなぜか。1クラス38人は多すぎるのでは。（内山委員）
- 新入生のうち、9名は発達クラス。少人数クラスではエアコンが入れられないと言われた。学校行事でクラス数を統一することで、縦割り活動がやりやすい面もある。再来年度も生徒数が増えるようであればエアコンを入れてもらわないと困る。（校長）
- ・ 普通教室にエアコンを入れるのは必要なことなので、交渉は行う。（戸田オブザーバー）
- ・ 学習習慣の確立というのは、学校として目標値など指針が出ているのか。（永田委員）

- 学校としては出してはいない。子供によって必要な時間が違う。宿題は各教科で出していて、小学校とは違いある程度の量をまとめて出し期限を設けているが、宿題を出せないで学校に行きたくないという生徒もいる。自宅での時間の活用法も見直させたい。(校長)
 - ・ 家でできないのであれば、学校でやる時間を設けてもいいのではとも思う。宿題をやる子とやらない子でどんどん学力に差が出てしまうのも心配。(永田委員)
 - ・ 大学でもコロナ禍を経て学力低下の速度が速くなってきている。親に言われて大学に来ていたり、何がわからないかもわからないという子も多い。中学生で学ぶための気づきを持つのは難しいかも。キャリア体験学習は外から刺激をもらえる大事な教育。(眞鍋委員)
 - ・ 保護者でもない、先生でもない、知らない大人の意見を聞ける大事な場。(内山委員)
 - 総合的な学習の時間に、教員から提示される『活動』ではなく、本人が考えていくきっかけをつくる『探求』を行っていききたい。(校長)
 - ・ 子供達との意見交換会の時には目を輝かせている子ばかりだった。好奇心を持たない子もいると思う。子供たちに大人のがんばってきたことを話してあげるといことは大事。(安戸委員)
 - ・ 学校経営方針の昨年との変化があるのか。(安戸委員)
 - 昨年よりは項目を減らし、教員も動きやすいようにした。(校長)
 - ・ 学校運営協議会が一般の地域の方に広まっていない。(山村委員)
- 協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

(2) 学校運営協議会の自己評価

各委員が記入した自己評価をもとに熟議を行い、別紙のとおり評価をまとめた。

また、委員から以下の発言があった。

- ・ キャリア体験は今後も行っていくべき。(山村委員)
- ・ 普段とは違う子供たちの様子も見られて良い。(安戸委員)
- ・ 言語に困っている子はいないか。(内山委員)
- 1年生に、入国して1年以内の生徒がフォローが必要になっている。3年生でも自宅では現地語を話している家庭もある。(校長)
- ・ 地域で育てる、というよりも、地域で支えていくことを子供たちにもっと発信していきたい。(安戸委員)
- ・ 部活動のクラブ化などについても、地域として応援できることはどんどん応援していきたい。行政が動いてくれないと学校は動けない。(内山委員)
- ・ やりたくない教員にやらせることはできないのと、働き方改革のジレンマがある。部活動をやりたくて教員になった方の困り込みをする必要がある。地域の指導者をどう育成していくかが難しい。(戸田オブザーバー)
- ・ 平日の部活動と土日のクラブで指導者が違い、方針が食い違うところがあり、子供たちが困惑する。4月から中学校に上がる6年生も不安に思っている。(河村委員)
- ・ 大都市は移行がしやすいが、田舎に行けば行くほどいろいろな問題点が出てくる。(戸田オブザーバー)
- ・ 指導者はだれでもいいわけでもない。報酬面なども必要になって来る。(安戸委員)
- ・ クラブチームを作って運営しているが、中体連の試合時はいいが、クラブチームの大会は会場が取れなかったり、審判がそろわなかったりと問題が多発した。(眞鍋委員)

(3) その他

学校評価アンケート及び交通安全について教頭より説明を行い、各委員より以下の発言があった。

①学校評価アンケートについて教頭より説明した。

- ・ 質問項目①の生徒の結果は素晴らしい。(内山委員)
- 情報機器も使いながら、子供たちにわかりやすい授業を心掛けている。(教頭)
- ・ いじめへの対策を学校は良くやっていると思うが、懇談会や参観会などに出席できない保護者が理解をできないところもあるのでは。(安戸委員)
- ・ いじめ対策への生徒・保護者からの評価も大事だが、きちんと対策を準備できていることを伝えられると良いと思う。(内山委員)
- ・ 生徒の、いじめに対するアンケートで『思わない』という子が少数でもいる、というところを重く受け止めたほうが良いと思う。(戸田オブザーバー)
- 常に見守っているという姿勢を子供たちに常に見せていきたい。(教頭)
- ・ 質問項目⑫で教職員が『よく思う』が0%なのはどうか。(内山委員)
- 来年度以降への課題という受け止めに職員がしている。(教頭)
- ・ ⑫の内容が非常に難しい。職員としては納得してやり切ったと思うことが難しい。(安戸委員)
- ・ 職員が引佐のことを詳しく知らない状態で、⑫は難しいと思う。子供達への地元の魅力発見、愛着という授業ができれば十分だと思う。(河村委員)
- ・ 直虎伝承会の活動などに中学生も参加してくれるといいと思う。(山村委員)

②交通安全について

- ・ 道交法を知ってもらって、守ってもらわないとどうしようもない。(山村委員)
- ・ 大人でも当事者にならないとわからない。(内山委員)

12 報告

- (1) 夢育やらまいか事業CS加算分の報告(教頭より)
- (2) 退任委員よりご挨拶

13 その他連絡事項

- (1) 次回開催日時
令和7年度第1回 令和7年5月8日(木) 13:30~
- (2) 次回熟議内容について
新年度学校運営基本方針の説明、自己評価の項目検討